

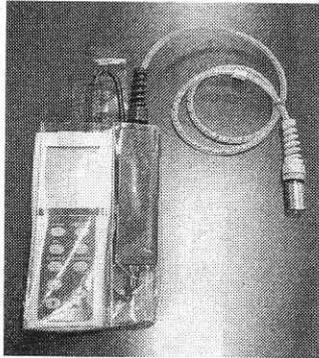
日本工業新聞

7 | 1 (月)

日刊(土、日、祝日休刊)
発行所：©日本工業新聞社2002

主な記事

② 創造技術 古紙を活性炭に、東工大がリサイクル技術
③ ベンチャー OSP、VOCセンサー装置を開発



新装置は有機物質のリングできるほか、有無、濃度を検知する。検知プローブと濃度などがデジタル表示される操作部からなる。空气中に設置してモニター

センサー開発ベンチャーのオー・エス・ピー(OSP)は石油類、塩素系有機物質の漏れや相対濃度を簡易、迅速に検知するVOC(揮発性有機物質)センサー装置を開発した。今月中旬に販売を始める。長期、継続的なモニタリングも可能で、パソコンとの接続でオンラインモニタリングにも対応する。環境汚染現場での簡易調査、分析用や化学製品などの生産過程でのプロセス管理など工業分野にも利用できる。

長期、連続モニタリングOK

OSPがVOCセンサー装置

リングできるほか、有無、濃度を検知する。検知プローブと濃度などがデジタル表示される操作部からなる。空气中に設置してモニターする。膜厚と屈率の初期数値と吸着後のそれぞれの数値の差や変化をモニタリングすることで有害物質を検知、濃度検査する仕組み。ガソリン、灯油、軽油など石油類と最低下限濃度は二五ppm(一ppmは百万分の一)から検知する。厚くなる。膜厚と屈率の初期数値と吸着後のそれぞれの数値の差や変化をモニタリングすることで有害物質を検知、濃度検査する仕組み。ガソリン、灯油、軽油など石油類と最低下限濃度は二五ppm(一ppmは百万分の一)から検知する。

利用可能。今後は現在開発中の水中の有機物質の有無や濃度を検知できるセンサーとの併用により、空气中、土中、水中のさまざまな環境で総合的に環境モニタリングできる装置としての普及を目指す。

従来、検知管や採取したサンプルをガスクロマトグラフィーや蛍光分析法を利用して検知する手法などが用い

られるが、長期の連続モニタリングは難しく、煩雑な測定手続きが必要となり時間やコストがかかってしまっている。